



サラ・ウィリアムズ

Ms. Sarah Williams

NPO サステイン プログラムディレクター

Programme Director of Sustain

プロフィール

サラ・ウィリアムズ氏は、現在、NPO「サステイン」のプログラムディレクターを務めています。2009年、チームの一員として「キャピタル・グロウス事業」に参画し、コミュニティが自ら食料を栽培する空間づくりを支援し、ロンドン市内に新たに2,012か所の農園を創出しました。ウィリアムズ氏は、サステインにおける新分野の業務に取り組み、今ではイギリス全土で行われている「ビッグ・ディグ事業」の立ち上げに関わりました。また、「グロウイング・ヘルス事業」にも取り組んでいます。ウィリアムズ氏は現在、NPO「サステイン」におけるロンドンでの事業の大部分を監督しているほか、イギリス全土で行われている事業の一部にも関わり、さらにNPOの代表としてロンドン食料委員会にも参加しています。

NPO「サステイン」に所属する以前は、環境事業を主導し、コミュニティ再生事業の実施などを担当していました。また、「ニューアム食料アクセス・パートナーシップ」の政策部長として、長年にわたり食と栄養の戦略計画の実施調整を行っていました。ウィリアムズ氏は、持続可能な開発のためのリーダーシップに関する修士号を取得しています。

事例紹介

①キャピタル・グロウス事業

2012年のロンドンオリンピックに先駆けて、コミュニティが自ら食料を栽培する空間づくりを支援するため、2008年に「キャピタル・グロウス事業」が立ち上げられました。この取組は、ロンドン市長に認められ、新規農園開設の際に少額の助成金がロンドン市から支払われました。「キャピタル・グロウス事業」のチームは、新規農園開設にあたって、土地取得の手伝いや、研修、助言といった支援を開設希望者に行います。また、地方議会等の土地所有者とも連携をとっています。食料を生産する場所は、学校、集合住宅や職場などに作られ、珍しい所ではレストラン、建物の屋上、ボートの上なども活用しています。「キャピタル・グロウス事業」は、都市における食料栽培を推進し、都市において人々がコミュニティ単位で食料を生産するプロジェクトを計画できるよう支援しています。

②ビッグ・ディグの日

より多くの人々が食料栽培に携わることを促す行動の日として、2012年にイベント「ビッグ・ディグの日」が始まりました。2012年のイベント当日は、50以上の農園が参加し、何千人ものボランティアが集まりました。NPO「サステイン」は翌年、この構想を全国で実施するために資金提供を受けて「ビッグ・ディグの日」の実施に向けて34の地域で活動し、ボランティア活動を促進するための研修を行いました。これまでに、500の農園を巻き込み、新しく参加したボランティアは9,500人に達しています。「ビッグ・ディグの日」は現在も続いており、2019年4月29日に開催された「ビッグ・ディグの日」には、100を超える農園が参加しました。



ビッグ・ディグのボランティア

③グロウイング・ヘルス事業

食料栽培には多くの健康上の利点があるため、2013年、NPO「サステイン」は、食料栽培を健康保険事業の一部として活用するよう働きかけを始めました。具体的には、食料栽培が、ストレスや認知症、その他精神疾患などの症状に対して効果的であるという学術的証拠に関する報告書を作成しました。また、健康保険事業と連携して、同事業により資金援助を受けるかたちで事例研究を実施するとともに、他の組織を支援するための研修を実施しています。